

重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。							
“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)							
 <p>■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数</p> <p>① 省エネ等級3相当の断熱材の仕様</p> <p>②屋光率 共用:エントランス 2.5%≤18% 住宅:Cタイプ 1.25%≤9.4%</p> <p>③対象外</p> <p>④それぞれの補修・更新必要間隔が15年～20年の物を使用</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤植物の植え込みあり ⑥特記事項なし</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦等級3相当の仕様</p> <p>⑧等級3相当の仕様</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材)</p> <p>⑪特記事項なし</p> <p>⑫特記事項なし</p> <p>■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑬特記事項なし</p>	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備	
				3.2	3.2.2	③	屋光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
				2.2.2	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
			2.2.3	④	配管・配線材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	主要設備機器の更新必要間隔		
	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制	
		2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用	
			2.2		⑧	自然エネルギー変換利用	
		3			⑨	設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩	モニタリング	
			4.2		⑩	運用管理体制	
	LR-2	1	1.1		⑪	節水	
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム	
				1.2.2	⑪	雑排水利用システム	
		2	2.1	2.1.1	⑫	躯体材料の再利用効率	
				2.1.2	⑫	非構造材料の再利用効率	
			2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材	
			2.3		⑫	有害物質を含まない材料	
			2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用	
			2.5		⑫	部材の再利用可能性	
			2.6	2.6.1	⑫	消火剤	
				2.6.2	⑫	断熱材	
				2.6.3	⑫	冷媒	
	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善	
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)							
 <p>■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性)</p> <p>⑮通信機器の多様化</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性	
						⑭	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備
					2.4.2	⑮	給排水・衛生設備
					2.4.3	⑮	電気設備
					2.4.4	⑮	機械・配管支持方法
					2.4.5	⑮	通信・情報設備
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)							
 <p>■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり)</p> <p>⑯電話線あり ⑰特記事項なし ⑱植物の植え込みあり</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>⑲特記事項なし</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑯	階高のゆとり	
					3.1.2	⑯	空間の形状・自由さ
	Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)							
 <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑲植物の植え込みあり</p> <p>⑳植物の植え込みあり</p> <p>㉑特記事項なし</p> <p>■敷地外環境対策 (㉒温熱環境悪化の改善)</p> <p>㉒特記事項なし</p>	Q-3	1			⑲	生物環境保全と創出	
		2			⑳	まちなみ景観への配慮	
		3	3.2		⑲	敷地内温熱環境の向上	
		LR-3	5			㉒	温熱環境悪化の改善